

## 中国が考える「戦略的抑止」—中国の軍事活動を観察する際の参考として—

地域研究部中国研究室 岩本 広志

NIDSコメンタリー

第255号 2023年3月9日

### はじめに

中国に「战略威慑」という言葉がある。中国の国防大学による『戦略学（2020年改訂版）』（肖天亮編、北京、国防大学出版社）（以下、『戦略学』）の説明では、国家および軍隊が一定の政治目的を実現するため、強大な軍事力を基礎として、複数の手段を総合的に運用し、（軍事）力とそれを用いる決心を巧妙に見せつけ、相手に耐え難い損失を突き付けることで譲歩・妥協・屈服を強いる一種の軍事闘争方式であるとされている。中国の2019年版の国防白書で「战略威慑」は、日本語版では「戦略的抑止」、英語版では「strategic deterrence」が充てられている。中国語の「战略威慑」のうち、前の2字は「戦略」であり、後の2字は「武力で脅かす」「威嚇する」「恐怖を与える」の意味である<sup>1</sup>。「抑え止める」というものではなく、攻勢的なニュアンスの中国語である。

軍事的な教義としてはどのように解釈されているのだろうか。『戦略学』では「戦略的抑止の行動方式」として、8つが列挙されて論じられている<sup>2</sup>。攻撃性を増す中国の行動を理解するうえで参考になるものと思われるため、以下にそれらを概略紹介したい。

### 中国国防大学『戦略学』に見る中国の「戦略的抑止の行動方式」8つの類型

#### (1) 戦争の気運の醸成

多種の闘争手段を用いて一触即発の気運を醸成し、切迫した戦争の圧力で相手を抑止する。手段として、党・国家・軍の指導者による戦う決意の表明、戦争動員令の発布、戦時状態の宣言、部隊の展開・準備、輿論戦・心理戦・法律戦（三戦）の実施、人民防空・交通路確保・防衛作戦の演練、集団避難、在外華人・機関への避難勧告等がある。

#### (2) 近代的兵器の展示

中国側が先進的な防衛・反撃の手段を有していることを相手に認識させることで、報復される恐怖を抱かせる。不特定の対象に軍事力を示すほか、特定の対象に計画的に実施することもある。また、不透明に行うことで相手に推測・想像の余地を与えることができる。手段として、パレード、兵器の展示・試験・実射のほか、高官訪問時の視察・艦艇訪問等の軍事外交を通して行うこともできる。

#### (3) 軍事演習の実施

大規模演習は戦略抑止の効果があり、中小規模であっても一定の条件下では戦略的に作用する。非公開にしたり、一部公開にすることにより相手を疑心暗鬼にさせてこちらの意図を捉えにくくし、定

<sup>1</sup> webl.io 中国語（白水社）<https://cjjc.webl.io/content/w%C4%93ish%C3%A8>

<sup>2</sup> 肖天亮編『戦略学』国防大学出版社、2020年、128-131頁。

例訓練なのか、外交と関係しているのか、作戦行動への転換するのか等の判断を困難にさせる。

#### (4) 軍事配備の調整

戦略抑止のための軍事配備の調整は、虚実を取り混ぜて行うべきである。手段として、軍事力の特定方向への機動・集結、ミサイル・新型機・空母等の新型艦艇およびその他新型兵器の配備の増加、戦略物資の前送、大規模な兵力の展開、戦略・戦役レベルでの展開、作戦のための配置、陸・海域発射型戦略核兵器の移動等がある。

#### (5) 戦備レベルの引き上げ

戦争準備の引き上げを意味する。脅威の兆候の現出に際し、戦備レベルの引き上げを公開して宣布するとともに兵力配備の調整・戦場建設の加速・情報活動やパトロールの強化等の実行動を組み合わせ実施したり、必要に応じ限定された地域での動員、国民的な国防教育の振起等を行う。また、相手が強引に戦争の選択肢を突き付けてくるのならば、こちらは躊躇せずに毅然とした態度で戦うという雰囲気を作り出すことで圧力とすることができ、敵に躊躇させ、行動の企図を断念させることができる。

#### (6) 情報作戦の実施

軍や地方政府を動員する等して、敵の指揮・警戒・防空・ミサイル防衛システム等に攻撃を行う。手段として、無人機による電子環境の構築や電波妨害および大攻勢の作為、衛星通信技術による敵の通信衛星・海事衛星に対する妨害、電子戦機による敵の早期警戒レーダー・誘導レーダーに対する妨害、テレビ番組への妨害やハッキング等がある。

#### (7) 限定的な軍事行動

地域を限定して管制の措置をとることで、敵の活動空間および行動を制限することができる。また、軍事的な圧力をかけることによる抑止の効果が得られる。手段として、軍事演習・試射等の名目での演習区域・航行制限区域の設定、艦艇・航空機の近接偵察・パトロールによる敵の定例軍事活動への妨害、相手の航路への圧迫等がある。

#### (8) 警告的な軍事打撃

敵の重大な挑発行為について、精選された小規模な軍事力で特定の目標に対して行う小規模な打撃である。敵の軍事力や拠点等を破壊するのではなく、打撃する能力や意図を明示し、抑止の効果を高めるのが目的である。戦争目的ではないため正確な情勢判断を要し、打撃の手段や規模を厳格に管理し、戦争に発展しないようにしなければならない。手段として、戦略ミサイルや経空火力による長距離精密打撃、特定の状況下での砲兵火力の発揮や特殊作戦等がある。

## おわりに

以上、『戦略学』に掲載されてある順番の通り列挙したが、記載順は烈度の高まりに比例している。最後に挙げた「警告的な軍事打撃」は、「戦争目的ではない」としながらも、実際の打撃を加えるという考え方である。戦端を切ることになりかねないものであるからこそ、「正確な情勢判断を要する」ともされているのだろう。しかしながら、戦争に発展しかねない、冒険主義的で危険な行為であることには変わりなく、中国当局の報道官がしばしば述べる、「危険な火遊びは慎むべき」ということがそのまま当てはまるのではないだろうか。

これら「戦略的抑止の行動方式」は、行動の意図も線引きも曖昧で、実際の打撃という、一線を越えた

といえるものまでをも含む極めて幅広いものである。中国が軍事的な行動をとるとき、ただ疑心暗鬼に陥ってこちらの行動に自ら制限を課すのならば、それが中国の狙いであり術中にはまってしまっているのかもしれない。上に紹介した「戦略的抑止の行動方式」の8つの類型は、中国の行動の意図は何なのか冷静に見極めるための一助となるのではないだろうか。具体例としては、2022年8月、ペロシ米下院議長の台湾訪問に際して行われた中国による一連の軍事的な活動や、本年2月、米国で確認された中国の気球に係る両国の応酬および米国による気球撃墜等がある。中国の行動とそれへの対応要領も併せて考察するとなお、今後の資とするところが大きい。

(2023年2月27日脱稿)

## プロフィール

profile

地域研究部

中国研究室

3等陸佐 岩本 広志

専門分野：中国の軍事動向、軍民融合

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。  
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。  
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29177）

F A X：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp/>